

平成24年度入学試験問題

国語

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題の本文は全部で15ページ（問題一～三）です。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答は、設問に従って、該当する解答欄にマークしてください。なお、すべてマーク解答問題です。解答にあたっては、必ずHBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
6. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
 - (1) 氏名・受験番号を所定欄に記入し、該当するマーク欄を正確にマークすること。
(機械処理上、非常に重要なので誤記のないよう注意してください。)
 - (2) 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで完全に消してから改めて書き直すこと。
 - (3) 指定した解答欄以外および枠外の空白部分には何も書かないこと。
 - (4) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないこと。
 - (5) 解答用紙の解答欄をマークするときは、次の(例)のようにマーク解答欄の番号をぬりつぶすこと。

(例) ③と解答する場合

マ ー ク 解 答 欄									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 問題冊子の余白等は適宜利用してかまいません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題一 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

あすになれば

ののほなのように

ちんもくのせかいにみをゆだね

あるがままにいかされて

めぐみをうけてほほえもう

筋萎縮性側索硬化症（ALS）と呼ばれる難病を生きて亡くなった川口武久さんの詩の一部である。

この病氣や川口さんのことは、立岩真也の『ALS 不動の身体と息する機械』という本で知った。この病氣は、重症の筋肉の萎縮や筋力低下、麻痺まひをもたらす神経変性疾患で、病状の進行は早く、意識・知能はまったく正常なのに、意思の伝達ができなくなり、呼吸筋麻痺などで死にいたることが多い病とされている。事実、川口さんの本には、元氣だったときから、しだいに身体の自由がきかなくなつてゆくようすがコクメイコクメイに記録されている。

立岩真也の本は、こうした不治の病を抱える人たちの医療体制、延命治療、死の自己決定の意味などについて粘り強く多角的に論じていた。それを読みながら、私なりにふと氣になることが出てきた。そして確かめたいと思うようになった。川口さんは、そんなふうに病氣が進行する自分と向き合いながら、それだけで生きてゆくことができたのだろうか。そして川口さんの本を直接に読むことになった。

^A 私の予感は当たつていた。川口さんは、病の進行が深刻になる過程で、キリスト教の洗礼を受けることになつていたのである。

川口さんの苦悩は、日々消えてゆく自分の運動機能に向き合いつづけるところにある。少しでも病氣に効く薬や治療法があると

聞くと、飛んでいって試してみる。そんな日々を送るが、どんな治療も病気の進行を止めることはできなかった。

そこでの苦しみは、「なおるかもしれない」と期待する気持ちと、それとは裏 Y に「進行する病状」の狭間に立たされる
ところからくる。そのときの「なおるかもしれない」「なおってほしい」という気持ちは、自分の身体を「社会の一員」の側にお
いて、まだみんなのように仕事ができるように回復する期待をもつことである。しかし、現実とは逆に身体が悪くなるばかりである。
訪れる苦悩は、自分で自分を「格付け」る意識からやってくる。「みんなと同じように働ける身体」に対して今の自分の身体は、
どれだけ近づいているか、あるいは離れているかと、見積もる意識からである。そこでの基準は、「社会で通用する身体」の有無
である。それを尺度として自分を見失ってしまう。そうすると「悪くなっている自分」しか目に付かなくなる。

そんななかで彼は、キリスト教に入信してゆくのである。

私は今、この入信や洗礼のことを「問題」にしようというのではない。彼が苦しい苦しいと書く日記の合間にふと、わずかでは
あるが「C」の表情を見せるときがある。それは病気の好転のときではなく、気持ちのもちかたの好転したときであること
が、読んでいてわかる。そういう心の好転のさせかたのなかに、「大きなもの」とともにいる自分を意識していることが理解され
る。それを「入信」とか「洗礼」のためとかいう決まりきった言葉で理解してはいけな**い**と思った。川口さんの体験される実質的
なもの見かたの変化を追って理解してゆかなくてはと。

川口さんは、「信仰告白」という詩のなかでこう書いていた。

にんげんにとって

ほんとうのまずしさは

しゃかいにみすてられ

じぶんはだれからも

ひつようとされないと感じることです

たぶん、それまでの川口さんのふだんの見かたは、自分が社会から必要とされていないという「格付け」の見かたであった。しかしそんなことを言えば「ののはな」だって「社会」から必要とされているわけではない。それなのに「ののはな」は咲いている。そして誰かが、^Dそういう存在のしかたを「肯定」している。川口さんはきつとそういうことに気がついていたのであろう。

振り返れば あなたがいる

姿は見えず 言葉もない

それでも あなたがいることがわかる

（「あなたがいる」一部）

私はあなたに頼ります 私の方では何もできません

あの人の人と 見比べてばかりいる私をお許し下さい

あそこにこちらにと いい顔ばかり見せて

あなたを顧みない時もあるのです

今さら この道は通りづらいついて立ち止まり

別な道を探そうとするのです

やはりまだ 私を棄てきれず 私が可愛いのです

（略）

あなたに近づくには勇気がいるのです

勇敢に踏み出さなければ あなたから遠ざかるばかりです

あなたを捜すには忍耐がともなうのです

（「あなたなしでは」一部）

ここでもくり返される「あなた」とは誰のことだろうか。

もちろん宗教的な神のことだというような返事をすることはできるだろう。しかし川口さんは「神よ」というような言葉を使っているわけではない。あくまで「あなた」という言葉を使い、「あなた」に呼びかけるようにしてこの言葉を使っている。

この「あなた」を宗教的な「神」に置き換えるのではなく「あなた」という言葉の次元において理解する道を残しておかなくてはならないと私は思っている。不治の病を体験したことのない私のようなものが、川口さんが体験した悲惨さのはしくれも理解できていると思うのだが、それでも私はそんなときの自分を救うものは「ののはな」のようなものに「いのちの紡ぎ」のイメージを見、そこに「消えつつ現われるもの」「現われつつ消えるもの」を見、^E そういうふうにしか現われえないものとともに自分があ
ることを感じるところではないかと今は思っている。

（村瀬学「あなた」の哲学」による）

問四 傍線部A「私の予感は当たっていた」とあるが、「私の予感」の内容としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 4 にマークしなさい。

- ① 川口さんは病気の進行を受け入れ、治療を拒否する決意をしたはずだ
- ② 延命治療の効果によって川口さんの病気が格段に良くなったにちがいない
- ③ 川口さんは不治の病を記録することだけでは生きていくことができない
- ④ 患者不在の医療体制を川口さんは最期まで批判し続けただろう
- ⑤ 川口さんが立岩真也に話したことのほとんどは十分な裏付けがない

問五 傍線部B「自分で自分を「格付け」る意識」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 5 にマークしなさい。

- ① 障がい者はみんなと同じようには仕事ができなくて当然であるという思い
- ② 社会の一員として活躍してこそ一人前であるという考え
- ③ 自分が社会から必要とされていないという偏見を破りたいという願い
- ④ 神の尺度にしたがって生きたいという望み
- ⑤ ののはなのように沈黙の世界に身をゆだねるという覚悟

問六 空欄

C

を補うのにもっとも適当な語を次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄

6

にマークしなさい。

① 驚き

② 喜び

③ 怒り

④ 哀しみ

⑤ 慈しみ

問七 傍線部D「そういう存在のしかた」とあるが、それはどのようなことを指すか。川口さんの詩の中で、それにもっとも近い

表現を次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄

7

にマークしなさい。

① あるがままにいかされて

② しゃかいにみすてられ

③ 姿は見えず 言葉もない

④ 見比べてばかりいる

⑤ 別な道を探そうとする

問八 傍線部E「そういうふうにしかな現われえないもの」とあるが、それを一語で表したときもつとも適当なものを次の①～⑤の

中から一つ選び、解答欄

8

にマークしなさい。

- ① 神
- ② 不治の病
- ③ 社会
- ④ ののはな
- ⑤ あなた